

社会福祉法人多摩福祉会 2021年度 事業計画

1. 50周年事業・中期計画・災害対応

- ・ 50周年事業に向けて、法人綱領策定、法人理念の整理を行う。
- ・ 法人50年誌を発行し、2022年度に行う法人50周年記念祝賀会の準備を進める。
- ・ 50周年事業の一環として、2022年4月開所予定の杉並区井草五丁目認可保育所整備・運営事業を進める。
- ・ 中期計画を展開できるよう拠点財政を点検し、拠点毎の財政計画を立てる。合わせて法人全体の財政計画を立てる。
- ・ 大災害に対応できる拠点毎の危機管理について検討を開始するとともに、新型コロナウイルス感染情報を共有し、積極的に感染防止対策を講ずる。

2. 評議員会理事会の開催、日常経営体制

- ・ 評議員会の開催
定時評議員会にて、定款変更、役員を選任解任、決算書類承認等を決定し、必要に応じて臨時評議員会を開催する。
- ・ 理事会の開催
定期的に理事会を行い、法人業務執行、理事職務執行の監督、理事長及び常務理事の選任解任、その他重要事項について意思決定する。必要に応じて臨時理事会を開催する
- ・ 経営会議の開催
理事長、常務理事、理事長指名の理事、各拠点代表により構成される経営会議を定期的に行う。経営会議は、理事会提案事項を検討し開催準備にあたりるとともに、情勢分析、各拠点の情報を共有し、日常の法人業務を進める。
- ・ 施設長会議、課題別会議
施設長会議を行い、各拠点情報を把握し、必要な事項を経営会議に報告、提案する。
人事委員会、処遇改善委員会、新規事業（PT）委員会、細則制定委員会、法人研修委員会、中堅層研修委員会、広報委員会、50周年委員会、50年誌編集委員会、リクルート委員会等の課題別の各種委員会、事務担当者会議、保健部会、給食部会等の職種別会議を行い、必要事項を経営会議に報告、提案する。

3. 対外任務

- ・ 社会福祉法人全国会議、全国民間保育園経営研究懇話会、全国保育団体連絡会、東京保育経営研究懇話会、及び関係自治体施設長会議など、諸組織における任務を積

極的に果たす。

4. 人事管理・研修

- ・ 全拠点の労働時間統一を図る。
- ・ 今後の職員処遇改善のあり方を検討する。均衡待遇確保に向けて有期雇用職員の処遇改善を図る。
- ・ 職員人事データを法人本部に集約しデータの蓄積整備を図る。
- ・ 杉並区井草五丁目認可保育所整備・運営事業を軌道に乗せるための拠点間人事異動、および新規採用人事を行う。
- ・ インターネット広告、交通機関広告、オンライン就職説明会及び採用面接など、リクルート活動を充実させ職員採用を円滑に進める。
- ・ 法人合研、中堅、主任、新人、給食、保健など体系的系統的な研修の強化を図る。
- ・ 他法人との交流研修を進める。

5. 広報・ICT化

- ・ 法人ニュース紙面を充実する。
- ・ 法人ホームページの充実を図る。
- ・ 各拠点のICT化に向けて検討を開始する。

こぐま保育園 2021 年度 事業計画

1. 事業内容

(1) 認可定員 211名

年齢	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
認可定員	21	35	38	39	39	39	211

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 保育時間 7:00～19:00

(4) 延長保育事業 18:00～19:00

(5) 1～5 歳児の異年齢保育

(6) 障害児保育

(7) アレルギー食対応

(8) 地域子育て支援事業（体験保育、産前産後育児体験、小中高生の育児体験、実習生受け入れ）

(9) 多摩市特別保育事業

① 一時・定期利用保育事業

2021 年度定期利用定員増 1 名、一時保育定員増 1 名とする。

イ) 利用定員： 定期利用登録 5 名、 一時保育 3 名

ロ) 保育職員体制： 常勤 1 名、 非常勤職員 2 名

② 連携保育事業（地域型保育事業との連携）

(10) 自主地域活動事業

① あそぼうかい…週 2 回 ② 育児講座 ③ 世代間交流

2. 児童状況

(1) 新入園児状況（3月15日現在）

① 年齢別入所状況

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
定員	21	35	38	39	39	39	211
新入所児童	15	14	3	2	0	0	
定員割れ	6	0	0	0	2	2	10

(2) 新入園児の特徴

① 0 歳の定員割れが発生している。コロナ関連の入園先延ばしと生み控えの影響、乳幼児人口の減少傾向、永山地域の人口動態が関連している。市内全体でも 0 歳

児の定員割れが52名発生している。

- ② 月齢は均等、男女比は男児2：女児1という極端な男児の多さ。
- ③ 地域子育て支援事業を経過しての入所が少なく、コロナ禍のためと推察される。
- ④ きょうだい関係の入園の減少については、今後出産を計画する父母層が山を越えて下火になっていることが考えられる。
- ⑤ 全体として34名中19名がこぐま保育園関連の入所となっている。

(2) 児童状況

- ① きょうだい関係 28世帯
- ② 育児困難・配慮家庭（他機関連携） 11世帯16名
- ③ 障害児 1名
- ④ 発達観察要配慮児童 12名
- ⑤ アレルギー対応児 6名

3. 職員状況

(1) 正職員(在籍) 48名

① 正職員配置状況

職種	園長	副園長	事務長	主任	保育士	看護師	栄養士	調理師	育休	合計
人数	1	2	1	4	33	1	4	1	1	48

新規採用者 2名（2月6日現在1名欠）

② 育休復帰者 1名

(2) 有期契約職員 有資格者14名、無資格者18名

① 有期契約職員配置状況

部署	にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり	給食	ちいくま	環境衛生	計
週2				1						1
週3	1		2				1			4
週4	1	1					2			4
週5	1	3	2	2	6	3	1	2	3	23
合計										32

有資格者14名、無資格者18名

② 有期契約職員新規採用者

新規採用者 1名

障害者雇用職員 1名

(3) 嘱託医 3名

① 小児科医 1名（松本多絵 日本医科大学永山病院小児科医局長）

② 産業医 1名（菊池有希）

③ 歯科医 1名 (三上 直一郎 ミカミ歯科医院 医師)

(4) 講師

① わらべうた 勝俣希子

4. 協力関係機関

- (1) 島田療育センター巡回指導 年間2～3回
- (2) 発達支援室巡回
- (3) 市・健康センター、子ども家庭支援センターへの相談と連携
- (4) 都保健所保健指導、児童相談所相談等の援助・協力
- (5) 産業医との連携

5. 2021年度重点課題

新型コロナウイルス感染症に対応し、昨年度と同様あらゆる工夫や検討を行いながら保育を行う1年になることが予測されます。子育て基盤が不安定となり、生み控え、集団保育への不安感により、多摩市の新規入所申請数が前年度比7割に減少するという実態になっています。0歳児の定員割れや退園転園などの入れ替わりの増加が予測され、財政基盤が不安定になっています。その中でも2020年度同様子どもたち、職員、父母の主体性が発揮されるよう取り組み、子どもたちの権利が最大限守られるよう力を合わせていきます。

(1) 子どもの主体性、自主性が発揮できる保育を発展させます。

① 2021年度はじめは分析不可能なウイルスとの闘いで、特に年長独自の取り組みが制限され、大きな行事や父母が中心に運営するクラスの交流会などを中止せざるをえませんでした。保育の中で子どもたちのやりたい気持ちを大切に引き出しながら、クラスで相談してプチイベントを実現させたり、保育の中の工夫で子どもの育ちを支え、子どもの主体性を引き出してきました。昨年度の実践を生かし状況を見定めて保育を創造していくことを重点とします。

② 歴史の上に立って保育内容を検討することにより保育内容を発展させます。

「現状の保育は試行錯誤の中で姿を変えてきた。子ども、父母の生活実態をつかみ、子どもと父母の主体性を最大限発揮して子どもの育ちを支えることを目標に歴史的に創造されてきたもの」という点を職員がつかんでいけるよう、様々な場で45年史を活用していきます。職員が「歴史を振り返って検討する視点」を持ち、そのことが保育士の主体性と保育内容の発展につながるようめざしていきます。

(2) 職員の主体性が発揮できる運営を目指します。

① 幹部体制、事務室体制の構築

幹部の世代交代及び法人事業計画にある多摩市内外の施設拡大を念頭に置き副園長、主任などの幹部養成を行っていきます。副園長3人体制を目指しつつ、2021

年度は副園長2人体制を実現させ、運営の安定を図るとともに、園運営の視点を引き継いでいくことに重点を置きます。中期計画のなかで計画的に複数人が主任を経験することをめざしていきます。

② 職員集団づくり

職員が自分の可能性を見出し、生き活きと働きがいのある職場づくりをめざします。夫々の個性を認め合い、自信をもって仕事に向かえるよう職員集団作りを重点とします。副園長、主任などがおうち運営について援助していくことを大切にします。

③ 職員体制、構成の検討再構築をおこないます。

2021年度4月に0歳児の定員割れが発生しました。多摩市の乳幼児人口の減少とコロナによる入所時期の延期などの影響も考えられますが、地域要望などをつかみ、情勢分析を行い適正な定員について多摩市とともに検討していきます。

0歳児の定員減少運営費の大きな減収につながっており、中期的な見通しを立て職員体制全体の検討を行います。

④ 働く環境をととのえ、働きやすい職場づくりを行います。

2017年度より3ヵ年計画で検討してきた結果をふまえ、法人内各事業所との労働時間の統一化を図ってきました。2020年度、一時的な統一化を実施することはできませんでしたが、変形労働制の実用、土曜日出勤体制、会議時間保障など、引き続き様々な課題があります。

また、結婚、出産と重なる時期をむかえる職員層が増え、産休・育休取得希望者の増加や復帰してからも働き続けられる環境の整備など、多様なニーズが求められています。保育士確保が難しく人材が財産である保育現場にとって保育の質の維持・向上のためにも、短時間正規職員制度や所定労働時間の短縮措置等の制度など、既存の制度を活かしつつ創意工夫しながら働きやすい職場づくりを総合的な観点から目指していきます。

(3) 父母と共に子育てを考え、互いに力を出し合う運営を発展させます。

① 昨年度は交流することを制限せざるをえませんでした。日常のふれあいの大切さ、思いを共有することの大切さを痛いほど感じてきた2020年度でした。「集まること」が許される状況になったら、歴史的に積み上げてきた取り組みを徐々に取り戻していくことはもちろんですが、工夫して交流し、2020年度入園児の父母や新入園児の父母が子育ての思いを共有でき、年々培われてきた子育ての輪が発展するよう努力をします。

② こうなってほしい、こういう力をつけて欲しいという父母の願いを共有しながら、異年齢保育で育ち合う姿、ついていく力をわかりやすく伝えていきます。職員も父母との伝え合いを通して成長できるようにします。

③ 昨年度同様、新型コロナウイルス感染症については、感染拡大防止の観点から、

保護者への情報開示は個人情報保護に最大限配慮しつつ迅速におこなうことにとりくみます。また、父母会とも学習などを行い、連携して立ち向かっていけるよう目指していきます。

(4) 地域の人々にとっての福祉環境の発展にさらに貢献します。

- ① 昨年度は人数制限を行って「あそぼうかい」などに取り組んできました。世代間交流は制限せざるをえず、大変残念でした。これらの事業は20年度までは都と市の公的事業として取り組んでいましたが、市の事業再編によりやむをえず自主事業となっています。保育園が地域住民のためにより力を発揮することは求められています。公的事業として取り組めることを目指していきます。一時保育事業、永山学童クラブや児童館との連携を密にして永山地域一帯を子どもたちから高齢者まで生活しやすい地域にすることをめざします。
- ② 一時保育・定期利用保育事業を発展させます。
昨年同様、交流する異年齢のおうちに遊びに行き、共に過ごす実践をさらに充実・発展させます。
- ③ 学童4施設との交流、保育内容の充実、連携を深めていきます。
- ④ 協力・共同関係にある父母会、五者協議会、同窓会、労働組合などとともに子育てと福祉の輪を広げ発展させていきます。

6. 職員研修計画

昨年度は「大人数集まること」「外部で学ぶこと」は感染防止の観点から自粛せざるを得ず、十分に実施することが出来ませんでした。2021年度は感染状況や社会動向を見ながら例年おこなっていたものに取り組んでいきます。法人研修とともに体系化しつつ、1.2年目の職員にはバディ制度をより明確にしつつ取り組んでいきます。

また、国が進めているキャリアアップ研修についても計画的な実施を進めていかなければなりません。日々の保育充実と共に両立させていくために、人材の補充と体制の確保、個別や集団での振り返りを副園長・主任を中心に組織しながら、職員全体の共有性を高めます。

(1) 園内研修

- ① 全員研修（荒馬、ドル平、他）
- ② 講師よる研修（わらべうた、美術、他）
- ③ 新人研修（保健関係、乳保育研修児、離乳食研修、他）
- ④ 研究会（体育、わらべうた、美術）
- ⑤ その他必要に応じて計画

(2) 出張研修

- ① 全国・東京経営懇研修会・セミナー
- ② 東京都、多摩市、支援関係機関など行政主催研修
- ③ 東社協・日保協主催研修会
- ④ 保育協議会 保育士会・ハンデイキャップ・栄養士会・看護師会
- ⑤ キャリアアップ研修
- ⑥ 他

(3) 法人研修

法人事業計画の中で、研修の系統化を目指しています。新人研修、中堅層研修、法人合研、保健部会、給食部会など、多岐にわたる分野を総合的かつ一体的に計画し、連動性を高めるなかで、より実践に活かしていける内容としていきます。

(4) 自主研修

職員一人一人に支給される研修費補助を生かし、個人研修計画における目標にそって研修を実施します。

7. 修繕計画

2020年度実施した中・長期修繕計画見直しを活かし、見通しを持った修繕の実施と本年度の計画を行っていきます。一方、福祉医療機構施設整備借入金の返還が終わり、予算との関係性も見ながら建て替えを見据えた計画が必要となってきます。

ただし、2021年度は収入の減収や見通しの持ちづらさがあり、必要最低限にとどめます。

外壁補修工事・ゴミサー入れ替え・厨房冷蔵庫入れ替え、その他を行います。

練馬区立向山保育園 2021年度 事業計画

1. 事業内容

(1) 認可定員 120名

年 齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合 計
認可定員	9	18	21	23	24	25	120
運用定員	9	19	22	24	25	25	124
新入園児	9	10	3	2	1	0	25

(2) 保育年齢 8ヶ月～就学前

(3) 開園時間 7時～20時30分

(4) 延長保育 7時～7時30分、18時30分～20時30分

(5) 年齢別保育

(6) 障害児保育

(7) アレルギー食対応

(8) 地域活動事業（職業体験、ボランティア、実習生受け入れ）

2. 児童状況

年 齢	新入園児	アレルギー	障害児	外国人家庭	育児困難家庭	配慮家庭
0 歳	9名			1家庭		
1 歳	11名	1名(卵)			2家庭	
2 歳	3名	1名(バナナ)			1家庭	1家庭
3 歳	2名	1名(卵)		2家庭		
4 歳	2名		1名	3家庭		1家庭
5 歳	1名		2名	1家庭	2家庭	1家庭

(1) 新入園児状況 27名 23世帯 (2021年2月10日現在)

① 認定 全員 標準時間認定

② 入園経過 産・育児休業 18名、認可保育所 7名、認可外保育所 2名

③ 在園きょうだい関係 0歳 2名 ・ 1歳 6名

新入園児兄弟関係 4家庭 (0歳：2歳 1歳：3歳 1歳：4歳
3歳：4歳)

④ 延長対象児 朝：2名 夕②：1名

⑤ アレルギー配慮児 2名 (1歳、2歳 各1名)

3. 職員状況

(1) 正職員

職種	園長	副園長	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	環境衛生	合計
人数	1名	2名	1名	1名	25名	4名	1名	1名	36名

*主任1名(乳児)

(2) 正職員状況

*栄養士1名(産休)

*保育士1名(産休予定 3月末)

*保育士1名(環境衛生の引き継ぎと兼務)

*短時間正職員(保育士6名)

(3) 有期契約職員

職種	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	給食	環境衛生	日・祝	合計
人数	2名	4名	2名	2名	1名	2名	2名	2名	2名	19名

*日、祝勤務者 2名：1名：保育 1名：給食

*土、日祝1名は1歳児補充も兼務者

(4) 嘱託医

①嘱託医

和田ファミリークリニック 和田万里子先生(小児科)

安藤歯科医院 安藤浩徳先生(歯科医)

②産業医

田中医院 田中美緒先生(内科・神経内科医)

③講師

わらべうた 鈴木典子先生

巡回指導 北相模美恵子先生

4. 特別保育事業

(1) 休日保育

①定員 1歳・2歳 各6名 3歳・4歳・5歳 18名 合計 30名

②保育時間 7時30分～18時30分

③保育体制 常勤3～4名(保育士3～4名：内1名専任)

有期雇用職員2名(保育士：月2回勤務 調理師：毎回)

5. 研修計画

(1) 園内研修

* 子どもの権利条約、保育制度学習、年齢にふさわしい遊具研修、救急救命研修
保健関係研修（嘔吐処理等）、わらべうた等
オンライン研修も実施していきます。

(2) 法人内研修

* 法人合研・新入職員研修・中堅職員研修・実践交流研修

(3) 出張研修

* 行政研修・全国経営懇研修・東京経営懇研修・保問協研修等

6. 2021年度重点課題

(1) 運営、保育の見直しをもっていきます。

- ① 園長交代を見直し、運営の中心を担う中堅職員を副園長、主任、クラス責任者に意識的に配置していきます。また、クラス、職域だけでなく園全体の保育、運営等の役割を担ってもらいます。

保育内容委員会は若い職員中心の構成とし、各年、職域の保育内容の深め合いだけでなく、わらべうたや体育などの実践交流等もおこなっていき深めていきます。

- ② 育児時短者正職員の割合が増える中、子育てしながら働きあう環境づくりをどうおこなっていくのが課題となります。2021年度は育児休職復帰者が3名加わり、乳幼児を抱える子育て中の職員が6名（内1名4月より産休）になり、全職員の17%（保育士 25%）になります。全員が育児時短勤務者となります。

職員同士が、独身者も含め、お互いの抱えている状況を理解しあいながらの職場運営が大事になってきます。早番専任者、土曜専任者、日曜専任者を配置するとともに、各種会議は時間内でおこなえるよう工夫していきます。

- ③ コロナ禍の中、各種会議の工夫が求められます。事前に議題を整理し配布するなど、短時間で効率的におこないます。先を見通して課題を明らかにし、職員間での論議を保障しながら様々なことを決定していくプロセスを大事にしていきます。

職員会議、総括会議等はオンラインで分散して実施していきます。そのための環境整備をおこないます。

- ④ 職員配置等を考えるにあたって国基準、都基準、練馬区基準を基本にした保育体制があることを理解するために、保育制度の学習、保育園の財政状況も期ごとに職員に提示していきます。
- ⑤ 様々な就労形態の有期契約職員が多く、日々の伝えあいをふくめ、保育総括前後

に各年齢、職域ごとに会議をおこない、子どもの姿や関わり方を共有してきます。園としても年1～2回の全体会議を実施してきます。

(2) ひとり一人の子どもがその子らしく生活できる保育をめざして

- ① 異年齢保育実施をみとおし意識的な学習と実践をおこなっていきます。実施園への実習研修等もおこない、子どもたちの姿、職員の関係性などを学んでいきます。保護者との話し合いも進めていきます。
- ② 子どもはみんな違う成長をしていきます。一人ひとりの今を見つめ子どもの気持ちや思いを受け止めていく保育をおこなっていきます。
- ③ 1歳クラスの室内環境の見直しをおこないます。白ちょう、黄ちょうの2クラスの保育をおこなってききましたが、1つのクラスとして保育をおこなっていきます。
- ④ 年長クラスの個別配慮児は子どもの状況をふくめその子にふさわしい就学が迎えられるよう保護者と子ども状況を共有してきます。
- ⑤ 昨年度の実践もふまえ、保育内容や行事の在り方について再度、子どもたちの発達を保障する視点をふまえて具体化してきます。

(3) 職員、保護者、地域等の関係づくりを意識的におこないます。

- ① コロナ禍で職員同士の関係性が希薄にならざる負えない状況にあります。様々な状況にある職員が精神的に不安定にならないよう、会議等の場だけでなく、日常的に声をかけ職員同士の繋がりを大事にする運営をおこなっていきます。
- ② コロナ禍のなか保護者の置かれている状況は急激に変化していることが予想されます。日常的に話をするのが難しい中ですが、日々の登、降園の様子や会話を通して変化を感じ取り、必要に応じて個別に対応してきます。
また、保護者の状況を把握しながら、密にならないようにオンラインでの個人面談、小集団での懇談会等をおこなっていきます。
保護者参加の行事も父母会と協議しながら進めていきます。
- ③ 地域活動はコロナ感染の状況を見ながら戸外での活動を中心に、感染防止（少人数、短時間、検温、マスク着用など）に努めながら実施してきます。

(4) ICT化の導入をおこないます。

- ① 職員の業務軽減を含めICT化をおこないます。

(5) 練馬区との協議をすすめていきます。

- ① 休日保育については、委託園の休日担当者会議等をふくめ、実施園と連携をとりながら、2022年度にむけ受け入れ定員の減を目指してきます。
- ② 委託から民間保育園への移行について引き続き協議を行ってきます。

砧保育園 2021年度 事業計画

1. 児童状況

- (1) 認可定員 76名
- (2) 利用定員 85名
- (3) 保育年齢 産休明け～就学前
- (4) 保育時間 7:15～22:15
- (5) 年齢別定員状況(4月1日現在)

年齢	0才	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	6	12	12	14	16	16	76
利用定員	6	13	15	16	17	18	85
新入児童	6	7	2	1	0	0	16

(2021年2月28日現在 4歳児 1名、5歳児 3名空き)

- (6) 新入園児状況 15名 14世帯 (2021年2月28日現在)

- ①認定 全員 標準時間認定
- ②入園経過 産・育児休業 11名、認可保育所 2名、認可外保育所 2名、
- ③きょうだい関係 0歳児 2名、1歳児 3名、3歳児1名
2歳児と 1歳児のきょうだい 1組
3歳児と 0歳児のきょうだい 2組
3歳児と 1歳児のきょうだい 1組
4歳児と 1歳児のきょうだい 1組
- ④延長対象児 0家庭(年度当初状況)
- ⑤困難・配慮家庭 0家庭
- ⑥障害児 1名
- ⑦アレルギー食対応児 2名(1歳児 2名)
- ⑧健康面配慮児 1名

- (7) 在園児状況

- ①世帯数 49世帯(新入園家庭とのきょうだい関係を除く)
- ②保育時間認定 全員 標準時間認定
- ③きょうだい関係 9組(新入園家庭とのきょうだい関係を除く)
- ④アレルギー配慮児 5名
- ⑤発達要観察配慮児 0名
- ⑥配慮家庭・関係機関対応 1家庭

3. 2021年度 重点課題

(1) 子どもの自発性、主体性が発揮される保育を目指します。

① 個々の子どもの特性を理解し、子どもの気持ちに寄り添った保育をおこないます。また、子どもの人権に焦点を当てつつ、日々の何気ない実践が人権を尊重出来ているかどうか等、率直に考え合う中で、何を大切に保育していくのかについて深め合っていきます。

② 異年齢保育を深め発展させます。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、セクションを越えた異年齢交流を行わないようにしてきました。2021年度はワクチン接種状況を踏まえつつ、安心して行える条件が整えば積極的に行いたいと考えています。ただ、未だ見通しが立ち切らない状況の中では、現在の判明している新型コロナウイルスの特性を正確に捉えながら、適切な配慮を行った上で異年齢保育実践を進めたいと考えています。

異年齢交流ができなかったことで、子ども自身や職員の思いとしても異年齢の関わりを切に求めていることが感じられました。そのような意味では、今まで積み重ねてきた異年齢交流実践の意義がより鮮明となった1年でもありました。なぜ子ども達にとって異年齢保育が必要なのかを、子どもの姿を通して感じられたのだと思います。その確かな思いを元に、現状で何をどこまでどのようになら可能なのかを日々模索しながら実践を進めていきます。

また、正職員数が減少するにあたり、より柔軟な保育実践の検討や職員の動き方の検討も必須となります。乳児・幼児のセクションを越えた異年齢交流をより柔軟に進めることで、結果的に子どもも大人も成長できるような実践を皆で考え合っていきます。

③ 保育内容を深め合うために、会議内容の精査を行います。

2020年度は、運営会議では幹部育成の観点から、より運営的な視点を共有するような内容を主に位置づけてきました。その反面、保育内容を主に検討する位置付けの運営責任者会議が新型コロナウイルス対策の一環で時間を短縮して行ってきたため、保育実践が深めきれないもどかしさもありました。

2021年度は幹部職員が数名抜けることや、正職員数が減少する中でスタートする状況もあり、より保育内容を押さえ合う会議が必要となります。運営会議でも保育内容に重点を置いた会議内容に精査し、今職員と確認し合いたい保育実践を検討しながら進めていきます。

④ 担当制実践の押さえ直しをします。

2020年度第3期総括会議分散会にて、なぜ担当制を大切にしてきたのかの押さえ直しを行いました。2021年度はより具体的な実践について学習しながら深め合い、

意義を確かめ合っています。

- ⑤ 砧地域は幼児については待機児童がほぼいない状況が続いているため、2024年度に向けて各年齢16名ずつ定員を目指します。世田谷区と今後の情勢を見通しつつ、検討を進めていきます。

- ⑥ 延長保育専任職員を配置します。

2020年度においては新入職員が多いことや希望職員がいなかったこともあり、専任職員を配置しない1年となりました。そのため、振り返りの中で出された意見として、職員間のローテーションが多くなり子どもにとって安定した食事環境となり切らなかった点や、遅番分担回数のバランスの問題等について触れられていました。

2021年度は延長保育専任の希望があり、専任職員を配置できる状況となります。これにより課題が改善されることに加え、長時間保育でより丁寧なフォローが必要な子どもや保護者への安心にも繋がるのではないかと期待しています。

- ⑦ 世田谷区休日祝日保育事業を安定的に運営させていきます。

2020年度は新型コロナウイルスの影響を受け、実績人数が例年よりも減少しました。今後どのような状況となるのか見通しきれない状況ではありますが、財源確保の観点からも一定の定員確保が求められます。休日保育実施園と情報共有しつつ、連携しながら安定的な運営となるよう努めます。

- (2) 職員一人ひとりが自分は必要とされていると感じられて安心できることを土台に、職員集団が意欲的に高まり合える職場作りを目指します。

- ① これまでの砧保育園の歴史を引き継ぎつつ、新型コロナウイルス対策を含んだ現状に求められる新たな保育実践を模索していきます。常に保育・運営が「何を何故大切にしたいのか」を検討し、納得し合いながら力を合わせて一歩ずつ進んでいきます。

納得し合うために、職員一人ひとりが自分の思いを安心して発信でき、受け止め合う雰囲気作りを大切にしていきます。その結果、自分の存在が砧保育園にとって必要であると感じられるよう努めます。

- ② 財源的な課題解決のため、2020年度よりも正職員数を減少させます。

具体的には、事務室1名、保育2名（新園受託によっては後半期3名となる）、給食1名減となります。それに伴い、人員配置の再構築が必要となります。0歳児主任と1、2歳児乳児主任を合わせた乳児主任と位置付け、乳児期の連続性を意識した保育実践をしていきます。また、事務室主任、幼児フリーをなくす等、今まで以上に職員一人ひとりの力量が求められる一年となります。

このような状況でも保育現場が安定するために、園全体で連携を取り、保育内容について密に確認し合える会議内容とする等工夫を行っていきます。

また、現状に納得できるよう、財源についての学習も深めていきます。

- ③ 保育園運営を推進する幹部の担い手の経験積み上げに長期的な視野で取り組みます。

砧保育園の幹部を担う世代は、まさに結婚出産する世代となっています。一部の職員が幹部を担うことは運営上不可能であり、交替しながら継承していく必要があります。また、子育てと仕事を両立させながら幹部の任を皆で担っていく必要があります。

2021年度では、産休や新園受託に向けての準備で主任が最大3名抜けることが見通されます。次世代の管理職、主任の担い手の経験の積み上げが急務となりますが、現場責任者の経験も確かなものとして主任へという展望も大切にしたいと考えています。焦らず、現場で子どもから学ぶ経験を豊かに積みつつ、若い職員にとって過重な負担とならない責務の分担が必要となります。職員の意欲の芽生えを丁寧に掴みながら、成長に繋がる適切な役割分担を随時検討します。

- ④ 砧保育園の特徴として、異動職員等の他施設経験者が多く在籍しています。その利点を活かし、砧保育園が積み上げてきた保育を土台にしつつも多角的な視野で保育を捉え直しながら、子どもを中心とした豊かな保育実践をさらに積み上げていきます。職員同士が多様性を認め合いながら、その体験が子どもや保護者の様々な姿への理解に繋がるような深め合いをしていきます。

また、今まで行ってきた保育実践や行事について、「なぜ大切に行ってきたのか」を常に問い直しながら、職員一人ひとりが理解し、納得した上で行えるような意識付けを行っていきます。

- ⑤ ここで働きつづけたいと感じられる労働環境作りを皆で検討し実践していきます。

変形労働制を活用することにより、休日保育の出勤回数を軽減し、振休を減らすことで平日の保育を充実できるようにします。また、2021年度は育児休業復帰者が1名加わり、子育て中の職員が7名となります（育休取得職員2名、育児時間短縮勤務者1名含む）。休日保育を実施していない自治体に住む職員もあり、1人1人の職員にとっての子育て環境は様々です。子育て中の職員が家族との時間をしっかりと確保できるよう、土休日を主に担当する有期契約職員の雇用を計画します。

加えて、様々な立場の職員同士が、多様な力を発揮し合う中で、お互いに支え合っているという思いを共有できるような役割分担や雰囲気作りの形成に努めます。

- (3) 保護者と共に歩んでいきます。

- ① 各おうちの懇談会や保育参加、日常的な会話等を通して保護者の思いや、悩みを理解し共有し合う関係を意識的に形成していきます。また、保護者の置かれている状況を理解する学習等も行っていきます。

2020年度は新型コロナウイルスの影響により、保護者同士を繋ぐ取組みが思うようにできないというもどかしさがありました。2021年度はその課題を少しでも解消

できるよう、日常的な保護者とのやり取りをより大切にすることや、子ども同士が育ち合っている様子がよりリアルに伝わる発信の仕方の検討を進めます。それにより、園と共に子ども集団を育てているという思いを持てるよう努めます。

- ② 父母会と園の協議会を継続し、保育内容や保育情勢について意見交換を行い、共に育ち合う関係を作っていきます。
- ③ 状況として可能となれば、環境整備や行事等、保護者が子ども達のために力を発揮できる場を位置付けることで、子どもへの思いをさらに膨らませたり職員との信頼関係をより確かなものとしたりできるようにします。
- ④ お迎えの際に事務室職員が子どもの見守りも兼ねて外門に立ち、保護者に声をかけることで園全体への信頼関係の形成に努めます。また、地域住民への苦情対策と位置付けます。
- ⑤ 新型コロナウイルス感染対策について丁寧且つ迅速に説明を行うことで信頼関係の形成に繋げていきます。また、率直に意見を交わし合いながら共に子ども達を守り育てる視点を共有します。

(4) 地域に必要とされ、異年齢保育という特色ある保育園として地域に根付くよう努力します。

- ① 地域担当チームを中心に地域要求に応える活動を行います。0歳児を中心にした広場、園庭遊び等の子育て支援活動を充実し、ホームページ等で広報活動を行います。
また、離乳食懇談会では、給食職員の積極的なアイデアを取り入れながら、より参加者に届く取組みを進めていきます。
- ② 状況として可能であれば、近隣の保育園や児童館、自治会、住民とも交流しつつ協力関係を作っていくことで、災害時に互助の関係性が発揮される土台作りを進めていきます。

(5) 施設整備を計画的に行っていきます。

中・長期の修繕計画を作成し、財政的な見通しを持ちます。今後は特に大型機器関係の交換時期を迎えており、巨額の支出が発生する見通しです。子どもが生活する場として相応しい環境を整備しつつ、計画的に施設整備を行っていきます。

また、砧保育園は躯体が世田谷区の所有物であるため、区として行うべき整備に関しては積極体に要望していきます。

(6) 新型コロナウイルス感染防止対策と、人間同士の関わり合いに必要なことのバランスを常に意識していきます。

- ① 新型コロナウイルス感染防止対策は世田谷区のガイドラインを遵守しつつ、子ども

にとって必要な体験については可能な限り工夫を凝らして行っていきます。その際、感染状況によって実施の有無を総合的に判断しつつ、実践の歩みを止めないよう職員と知恵を出し合っていきます。

- ② 可能な範囲でリモート会議を計画しつつ、状況として可能であれば対策をしっかりと行った上でリアル会議も大切に位置付けていきたいと考えています。

4. 職員研修計画

2021年度は新入職員を迎えず、一人ひとりが経験者として実践の積み上げを行う年となります。砧保育園の保育で大切にしていることを職員みんなで確かめ合いつつ研修を行います。専門家の力を借りたり、法人内の施設に見学に出かけたりする中で砧保育園らしい異年齢保育を目指して深め合い、保育内容の進歩のために研修を行っていきます。

また、新型コロナウイルス感染対策としてリモートでの取組みも進めていきます。

(1) 園内研修

- ① 全員研修－応急救護、防災、保育総括、荒馬、ドル平
- ② 講師による研修－わらべうた、陶芸、歯科医の講座、メンタルヘルス研修。
- ③ 新人研修－申請事務、保健研修、乳児研修、離乳食、他
- ④ ケース検討－配慮児を含む保育についておうちを中心に専門家とともに検討する。
- ⑤ 必要に応じて運営会議で検討を行い、講師による講座で研修を行います。

(2) 専門機関の巡回指導など

世田谷区発達支援センター（げんき）、総合福祉センターの巡回指導を受け、支援が必要な児童の保育について深め、保護者への働きかけも検討します。

(3) 出張研修

世田谷区、経営懇、東社協の研修に参加します。キャリアアップ研修に対応する世田谷区の研修、保育団体連絡会の研修などに参加を検討します。

処遇改善Ⅱの支給対象者については、必須項目を網羅できるよう積極的に位置付けます。

(4) 見学研修

状況として可能であれば、異年齢保育実践をより深めるため法人内施設の保育を見学し、研修を行います。

(5) 法人研修

法人合研、新人研修、中堅層研修、保健部会、給食部会等に取り組みます。

(6) 自主研修

- ① 職員一人ひとりに支給される研修費を積極的に活かし、個人目標に沿って個人計画をたて、目標をもって研修を行っていきけるようにします。
- ② 自主的に学ぶことによって、実践が深まっていくことを大切にします。

上北沢こぐま保育園 2021年度 事業計画

1. 事業内容

(1) 認可定員 90名

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
認可定員	9	16	16	16	16	17	90
在籍児童数	9	16	16	16	16	17	90

(2) 保育年齢 産休明け～就学前

(3) 開園時間 7時15分～20時15分

(4) 延長保育 18時15分～20時15分

(5) 1歳児～5歳児の異年齢保育

(6) 障害児保育

(7) アレルギー食対応

(8) 地域活動事業（体験保育、産前産後体験、ボランティア、実習生の受入れ等）

2. 児童状況 2021年2月5日現在

年齢	新入園児	アレルギー児	障害児	外国人家庭	育児困難家庭
0歳児	9名	2名			
1歳児	8名	4名			2名
2歳児		3名			
3歳児	1名	1名		1名 仏	
4歳児					
5歳児	1名		1名	1名 仏	
定期利用保育児 6～7名予定					

3. 職員状況 2021年2月5日現在

(1) 正職員

職種	園長	副園長	事務長	看護師	保育士	栄養士	調理師	合計
人数	1名	2名	1名	1名	20名	3名	2名	30名

*主任 3名（保育士・看護師・調理師おでかけひろば事業）

(2) 正職員状況

*新規採用者 保育士6名（新卒2名・既卒2名・欠員2名）
栄養士1名（新卒1名）

(3) 有期雇用職員

職種	0歳	異年齢	ひろば	給食	合計
人数	2名	5名	3名	1名	11名

(4) 嘱託医

- *小児科医 山角聡美 (三宅小児科)
- *歯科医 三上祐一郎 (ミカミ歯科医院)

(5) 業務委託

- *保育システム 株式会社コドモン
株式会社 hugmo (呼吸観察)
- *写真撮影 黒田雄一
- *ゴミ処理 藤ビルメンテナンス
- *セキュリティ 株式会社ザ・トーカイ

(6) 講師

- *言語聴覚士 永田裕美子

4. 特別保育事業

(1) 一時預かり事業 定員—6名

在園児使用のコドモンを導入し、円滑な連絡方法を築いていきます。

子どもたちの姿を通じ、保護者との関係を築いていきます。

1歳からの需要に応じていく為にも、世田谷区へ働きかけていきます。

受け入れ対象児

- ・1歳児～就学前（離乳が完了している児童）
- ・3歳児以上は両親ともに就労している家庭かつ、幼稚園との併用はできません。（夏季期間など長期休みは除く）
- ・年2回の更新を基本とし、登録希望の方がいたらその都度面談を行います。
- ・緊急一時預かり
園長決裁で緊急性がある児童は受け入れていきます。

(2) 定期利用保育 定員—7名予定(1歳児3名・2歳児3名・3歳児1名予定)

各家庭の状況に合わせてながら、丁寧に関係作りを行っていきます。

受け入れ対象児

定員が割れている施設で通常保育に支障がなく、面積基準を満たす場合、1年間限定で待機児を受け入れる制度です。世田谷区運営費、東京都キャリアアップ補助金への園児数定員は対象外。東京都サービス推進費により、一時保育利用延べ人数として対象になりますが、その他科目（外国人家庭、育児困難家庭など）は対象外となります。

- (3) おでかけひろば事業 週3日(火・水・金) 5時間(10時~15時)
- ・担当職員を中心に園状況と一致しながら、予約システムを導入し運営を実施しています。
 - ・地域の親子のニーズに寄り添いながら、オンライン等も活用し様々な形で利用者の話を聞けるようにしていきます。
 - ・HPを活用し、情報発信を実施し、子育ての参考なるよう努力します。

(4) 緊急保育 定員1名~2名

受け入れ対象児

世田谷区にお住まいの方で、通常は家庭で育児をしている方が、連続して1か月、世田谷区の利用理由のいずれかに該当し、緊急に保育を必要とするときに利用できます。在籍児童の受け入れ対象月齢から、利用可能となります。0歳児の緊急利用希望者が多く、地域のニーズに応じていく為、実施していきます。

5. 研修計画

- *子どもの姿を保護者と共有していく力をつける為に、子どもの姿から発達を学びます。
- *保護者と一緒に子どもを育てていくとはどういうことなのか、学びます。
- *保育の実践を話し合っていける時間をもっていきます。
- *目の前の子どもの姿から課題をみつけ、学んでいけるようになります。
- *オンライン研修を積極的に取り入れ、保育情勢や他園の保育環境を学んでいきます。

6. 2021年度重点課題

(1) 課題を解決できるまで寄り添った運営を目指し、点から線へつなげる運営へ。

- ・子どもの姿から、保育や行事をつなげられるよう、職員と意識的な会話を増やした運営を行います。
- ・クラス責任者の育成を行うため、クラス毎に副園長、主任を配置し、保育内容に重点を置いた育成を行っていきます。
- ・各行事や係り分担を責任者と運営と、一緒に作っていく関係を目指します。

(2) 職員が他の職員とともに保育を作り合い、子どもにとってどうなのかを集団で考えられるようになります。

- ・子どもの姿から具体的な関わり方や環境設定の仕方など、より具体的な保育内容について対話を増やしながらか、考えられるようになります。
- ・他の実践などを聞いて、受けた刺激を情報共有し、クラスの保育へつなげられるようになります。

- ・クラス単位や係り単位などを超えて、助け合い、学び合える職員集団を目指します。
- ・月一回セッション毎に有期雇用職員との話し合いの時間を設定し、子ども理解、保護者理解を行うとともに、子どもとの関り方を一致させていきます。

(3) 乳児から異年齢での生活を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと育ちあう保育を目指します。

- ・どの子ども遊び込む力がついていきます。乳児は大好きな大人に認められながら、丁寧に繰り返し行う姿がみられるようになります。
- ・子どもたち一人一人が、担任との愛着関係を築き、思った事感じた事を表現できるようになります。
- ・異年齢の育ちのなかで、伝承されてきている事項を大切に、子どもたち同士で作って合っている関係ができていきます。
- ・遊びが豊かになり、簡単なルールや人との関りを学んでいきます。
- ・戸外活動、粗大運動を活発に行い、大きな怪我をしない身体づくりを行います。
- ・話し合う事で解決していける事を学び、主体的に話し合いができる子どもたちに育ちます。
- ・個別配慮児や支援が必要な児童、家庭については、園内で関り方などを共有し、必要に応じて子ども家庭支援センター等の関係機関との連携をおこない、児童の安全を第一に考えていきます。

(4) 子どもの豊かな育ちを真ん中にし、保護者と連携しあっていく関係を目指します。

- ・新たな園運営を、保護者の意見も参考にしながら一緒に作り合っていきます。
- ・子どもの気持ちを保護者とともに、代弁できるようになっていきます。
- ・子どもは園と家庭で一緒に育てていることを、大事にしていきます。

(5) 地域との関わりを大事にし、地域に必要とされる保育園を目指します。

- ・地域の保育要求を把握しながら、地域に必要とされる保育園を目指し、園の様子を積極的に配信していきます。
- ・「おでかけひろば」は園全体で地域の保護者、子ども理解へつなげ、取り組み内容を考えられるように努力します。
- ・近隣施設との密な情報共有を行い、助けあえる関係性を構築します。

永山小学童クラブ 2021年度 事業計画

1. 定員 70人
2. 育成年齢 6歳～12歳 (小学校1年生～6年生)
・但し5、6年生は特別支援学校、特別支援学級在籍児童のみ
3. 育成時間 学校下校後～19時
学校休業日(春、夏、冬休み、土曜日、学校行事振替休日) 8時～19時
4. 児童状況(4月1日在籍予定数)

	人 数	モアサービス利用予定
1年生	23人	2人
2年生	24人	1人
3年生	21人	2人
4年生	1人	0人
5年生	0人	0人
6年生	1人	0人
計	70人	5人

*要配慮児童10人

- ・ 1年生の出身園

保育園	人数	幼稚園	人数
こぐま保育園	7	錦秋幼稚園	4
ゆりのき保育園	4	認定こども園多摩みゆき	1
かしのき保育園	3	のびのびっこ保育園	1
こぼと第一保育園	2	東京大谷幼稚園	1

5. 職員体制

正職員5名 内1名育児時短

有期契約職員(要配慮児対応職員)7名

6h×5(1名)、5h×5(1名)、4h×4(5名)

※加配職員8名のところ正職員5名(今年度限り)で対応する

6. 2021年度重点課題

① 「子ども会議」を拡充する。

- ・ 行事だけでなく日常の遊びのルールについても話し合う。
- ・ 子どももおとなも一緒に話し合っ考える。
- ・ お留守番や防犯、防災、交通安全など今まで「〇〇教室」として、大人が子どもに教える形式だったものも、進行や準備などに子ども達も参加し主体的に関われるようにする。
- ・ グループ担当制の充実（グループ単位の会議）

② 自発的な制作活動の支援の拡充

③ おやつやクッキングを通じた食育

① 「子ども会議」を拡充する。

今までも、お店屋さんや進級卒クラブを祝う会など大きな行事は、3年生会議で子どもたちと話し合いながら進めることが定着し、3年生になったらやれるという文化が継承されてきた。2020年度の事業計画でも、大きな行事だけでなく「交通安全教室」や「歯磨き教室」など外部講師にきてもらうものでも、最初の進行の部分なども大人だけで進めるのではなく、子ども達の進行役があってもいいのではないかと、3年生会議をもっと拡大し学年の枠も取り払い、「子ども会議」として会議をもっと身近なものとして位置づけようとした。

しかし、コロナ感染拡大に伴う2020年3月からの学校休業や、その後1回目の緊急事態宣言（4/7 発出）解除後の分散登校などで、行事そのものが実施できないものもあった。また、コロナ対応しながらの育成の組み立てや行事の実施に職員の打ち合わせや労力が割かれ、子ども会議だけでなくそのための職員間の打ち合わせもままならない状況であった。そんななかでも、9月の交通安全教室では、3年生の有志で会議をして司会進行を任せることができ子どもも職員もいい成功体験となった。また、グループ内で班替えの話し合いを、遊具の片付けや使い方について子どもたちと話し合うなど、計画していたことが後半以降実践できるようになってきた。その流れで2021年度は、子どもたちが、日々の生活や遊びのルールや友達同士のやりとりについても「言われたからやらないといけない」「わかっているけど言われるのはいやだ」となりがちな、大人からのルールの押し付けではなく自分たちで話し合うことで、もっと主体的に自分事として考えられるような会議、または話し合いの場を意識的に設定したい。

以前、テラスの使い方、場所の取り合いや遊び方や片づけなど様々な問題が出てきたことがあった。大人の方でその都度ルールを作って子どもたちに守らせようとしてもなかなか浸透せず、注意ばかりしないとイケない状況だった。その時、大人目線でルールを押し付けるより、子ども達に決めてもらった方がいいのではないかと子ども達の有志で話し合いルールを決めることにした。その後は、大人が口やかましく言わなくても自分たちでルールを守っていったという実績もある。

グループ担当制も 4 年目を迎え、地域を軸にした編成が根付き、子ども達の中でグループとしての文化のようなものができつつある。おやつや帰りの会は完全にグループ単位の子ども主体で進められるようになった。また、グループ内の席替えについては、グループ担当の正職員と加配の有期契約職員とのやりとりだけでなく、子どもたちともやりとりしながら決めてきた。それらの実践をお留守番教室や防犯教室にもグループ単位の「子ども会議」を取り入れ、70 人全員対象で実施する場合だけでなく、少人数のグループ単位でも、事前の話し合いからスモールステップで取り入れていくなど様々なバリエーションで負担感なく実践したい。

2020 年度はコロナ感染拡大に伴う感染防止対応などで、計画通りできない部分もあったので、2021 年度は、コロナ感染防止対応が前提のもと、

“さらに上を目指した子ども主体としての「子ども会議」”を実践していきたい。

② 自発的な制作活動の支援の拡充

自由遊びで、様々な素材を使って自由に工作できるよう、工作コーナーが場所として

保障されているが、素材については、収納の関係もあり一か所に集約できずその都度大人に言って出してもらっていたが、その都度大人に言って出してもらうのではなく、たいていの物なら自分たちで出し入れができるような環境整備をして制作活動の支援を充実したい。製作物もその時のブームや、子どもたちの成長によって必要なものが変わってくる。育成室だけでなく収納場所などのレイアウトも定期的に見直し、子どもたちのニーズに柔軟に対応していけるようにしていきたい。

③ おやつやクッキングを通じた食育

2020 年度の学校休業等で登所人数が読めない期間が長かったことや、職員の経験年数が 2019 年度から若くなったことなどで、おやつの内容に食育の観点がうすくなってきた。日々のおやつで馴染んだものや、クッキングで経験したことは、卒クラブ後の留守番中の間食やお手伝いに生きてくると思われる。学童クラブの生活で重要な位置を占めているおやつについて、今一度原点を見直し、子どもたちの食育だけでなく職員も一緒に学んでいけるよう、メニュー作成時の検討打ち合わせだけでなく研修なども取り入れていきたい。また、クッキングでは、2020 年度に新たな取り組みとして父母会との共催行事の「レトルトの日」を防災クッキングとし、パッククッキングでご飯を炊いた。2021 年度はパッククッキングをご飯だけでなく、パスタやカレーなどメニューを広げていきたい。

7. コロナ感染防止対策

手洗い・うがいの励行。

消毒や換気の徹底。

飲食時の密を避けるためのレイアウトの変更やシールド設置。

職員の健康管理票記入の継続。

多摩市のフロー及び法人ガイドラインの遵守。

※コップ、歯ブラシの管理については、各家庭の協力も得ていく。

8. 保護者との関係

コロナ感染防止対策をしながら、2020年度同様に保護者会や面談を実施していきたい。父母会共催行事は、2020年度は親子交流会ができなかった。感染防止対策をしながら、可能かどうか父母会と協議の上決めていきたい。

9. 環境整備

2020年度はテラスの活用があまりできなかった。3密対策としても春から秋にかけては活用できるスペースなので、子ども会議もやりながら子どもたちと作っていきたい。

10. 学校、地域、関係機関との連携

コロナ感染防止で、学校の授業時間が変わったり、家庭環境も少なからず影響を受けている。感染防止のために地域の繋がりがとりにくい状況も見受けられる。学校との連携や地域関係機関との連携もさらに重要になると思われる。今まで築いてきた良好な関係を引き続いていきたい。

11. 民主的で働きやすい職場環境

経験年数の浅い職員が共通理解できるよう打ち合わせの時間を丁寧にとっていきたい。2020年度の前半が学校休校や分散登校などで打ち合わせの時間が確保できず、その影響がかなりの期間あったので、会議の進め方、持ち方、準備についても工夫していきたい。

令和3年度 永山小学童クラブ 年間計画

多摩市学童クラブの目標

- ・自分の事は自分でできる子ども
 - ・命の大切さや心の痛みのわかる子ども
- ・みんなと協力できる子ども
 - ・いきいきと自分を表現できる子ども

年間目標	1.基本的な生活習慣を身につける。 2.思いやりの心を育てる。 3.様々な活動を通して創造性、社会性、自主性を身につける。
支援目標	<余暇支援> (1)家庭的で落ちつける環境作り (2)遊びの充実（自発的・自然発生的な遊びの保障） (3)支援学級在籍児童が多く異年齢集団である特徴を生かし、学び合い、協力し、共感し合えるよう支援する <生活支援> (1)手洗い、うがい・着脱衣などの自己管理ができる (2)後片付けや、物の管理ができる (3)食の大切さを学ぶ <安全指導> (1)地区班での降所指導 (2)4月及び冬期の降所路指導 (3)防犯教室・防災訓練 (4)交通安全教室
学年目標	1 年 生 自分のことは自分でしよう。言葉で伝えよう。 2 年 生 自分の周りにも目を向け行動しよう。班の仲間の面倒を見よう。 3 年 生 学童クラブ全体に目を向け行動しよう。全体の中での役割を果たそう。 4～6 年 生 1日を見通し、目的をもって生活を組み立てて行動しよう。

月	期間目標	月間目標	留意点
4月	・生活習慣を身に着ける ・仲間意識を育てる ・こどもの個性を把握する ・夏休みの生活の充実	・新しい生活環境に慣れよう ・自分のグループを知ろう	☆グループ単位としてのメンバーを知る ☆通所降所経路の確認指導
5月		・色々な遊びを経験しよう ・新しい友達とも遊ぼう	☆こまやけん玉の検定にチャレンジする ☆日常の遊びや、子ども会議を通して、仲間意識を育む
6月		・雨の日も楽しく過ごそう ・ルールについて考えよう	☆衛生や健康管理に配慮 ☆工作や、室内遊びの充実
7月		暑さに負けず楽しく遊ぼう	☆体調管理や安全管理に気をつける ☆暑いときの遊びの工夫
8月		・規則正しい生活を送ろう ・夏休みを楽しもう	☆長期休暇の継続的な遊びの支援 ☆友だち関係の新たな構築と充実
9月		生活のリズムを取り戻そう	☆生活リズムの確立 ☆集団生活の充実
10月		・元気に外で遊ぼう ・仲間と協力しよう	☆自主的に考えて行動できるよう支援する ☆ルールを守り、仲間意識を深める
11月		健康管理に意識を向けよう	☆学校行事を考慮し、無理のない活動を心がける ☆日没が早まることから、帰宅時の安全について考える
12月	体調管理に気を付けて元気に外で遊ぼう	☆校庭だけでなく公園での遊びの充実	
1月	・進級に向けての意識作り ・自己管理の力を高める	・健康管理に気をつけよう ・ことばで気持ちをつたえよう	☆友達関係や遊びの発展 ☆個々の成長の確認
2月		・自主的活動を楽しもう ・生活を見直そう	☆新年度を迎える準備 1・2年生……進級準備
3月		・進級に向けて準備をしよう	新1年生受け入れの心の準備 3・4年生……卒クラブ後の生活に向けての対応

令和3年度 永山小学童クラブ 年間計画(案)

月	行事	防犯・防災	制作活動	家庭との連絡	学校・地域	その他
4月	新入生歓迎会7日(水)	避難訓練 降所指導	コマづくり	保護者懇談会(15日) 保護者懇談会(16日)	入学式・始業式日()	遊び方会議
5月		避難訓練 引き渡し訓練 日()	プランター栽培	個人面談25日 ～ 親子交流会29日		こども会議① プランター、テラス整備
6月	映画会①	避難訓練	雨の日工作			こども会議② 歯磨き教室2日(水)
7月	クッキング・映画会②	避難訓練、CAP お留守番教室①	七夕飾り	保護者懇談会9日(金) CAP		こども会議③ 虫捕り
8月	(学童交流)	避難訓練	夏休み工作 手芸			虫取り・水遊び 父母会共催井の日①
9月	映画会③ お店屋さん準備	避難訓練 総合防災訓練 交通安全教室	地域安全マップ			こども会議④
10月	お店屋さん20日(水)	防犯訓練 お留守番教室②	ハロウィン製作	保護者懇談会	地域防災 地域運動会	
11月		避難訓練 降所指導	感謝カード	個人面談		手洗いチェック
12月	カレーパーティー	避難訓練 3年生CAP	クリスマス工作 ゆびあみ	3年生保護者懇談会		大掃除
1月	(クッキング) 遠足準備	避難訓練	書初め		こぐま交流	父母会共催井の日② お留守番のお守り
2月	3年生お別れ遠足	お留守番教室③ 避難訓練	お面作り			こども会議
3月	進級を祝う会 クッキング・映画会⑤	避難訓練	新入生へのプレゼント製作	入所説明会	卒業式 児童館利用体験(3年)	こども会議

ねらい
＜行事＞

仲間意識、お互いに思いやる心を育む……新入生歓迎会・進級を祝う会
みんなで準備し、取り組むことにより自主性・協調性を育む……お店屋さん・進級を祝う会
社会性を身につけ、自主的行動を実践する機会とする……お別れ遠足、お留守番講座等
作る喜び、最後まで作り上げる努力、友達同士で教え合い伝え合う楽しさを体験する。
災害や交通、防犯など自分の安全を守るため意識を高め、知識やスキルを身に着ける

＜制作活動＞
＜防犯・防災＞

2021年度研修計画

永山小学童クラブ

研修名	主催	日時・回数等	内容	参加者
学童担当者会議	多摩市	新人以外は隔年参加も可	・応急処置 ・人権 ・災害対応 ・発達支援室 ・こどもの見立て ・子育て総合センター	常勤全員
基礎学担	多摩市	3回	学童クラブの基本的な目的と業務全般について学ぶ。施設長が分担してレクチャーする。	新人職員と希望者 施設長全員
中堅学担	多摩市	10月～ 3回	中堅職員が、ポスト施設長として或いは、新人職員に仕事を教える立場として基礎をより深く学ぶ	中堅職員と施設長 数名
課内研修	多摩市	2回	子育て支援に関わる人たちが日々直面する課題について学ぶ	常勤・短時間職員 全員
東京都放課後 児童支援員認定 資格研修	東京都		放課後児童クラブ運営指針についてと指針に沿って学童クラブの目的や支援員の業務全般及び児童期の子ども全般・遊び等	有期職員で未受講者
アレルギー研修	東京都 多摩市		・主に食物アレルギーについて ・エピペンの使い方	新人職員 2年目職員
法人研修	多摩福社会		・新人研修 ・合同研修会 ・中堅層研修	新人職員 全職員 中堅職員
連協研修	全国学童クラブ 連絡協議会		学童クラブの現状の問題点や今後について。職員のスキルアップ。保護者 同士意見交換、共有など。	希望者 (自主研修)
三多摩フォーラム	三多摩連協		連協研修三多摩版	希望者 (自主研修)
法人学担	多摩福社会学童 クラブ四施設	学期に1回	毎年テーマを決めて学童クラブ支援員としてスキルを上げる。2019年度は施設交流など	常勤職員全員
職場シミュレーション	永小学童クラブ	随時	アレルギー対応 応急対応 防災・防犯関係	常勤・短時間職員
島田巡回相談	島田療育センター	1～2回	支援児対応等	常勤・短時間職員
障がいについて基礎研修			自閉症・発達・対応等について	常勤・短時間職員
救命救急講習	消防署		救命救急・AEDの使い方	常勤 (新人、更新年度職員)
東社協関係	東社協		財務関係 労務関係 マネジメント	担当者
日本学童保育学会 研究大会	日本学童保育学会		実践研究報告と学童クラブの課題等を現場とグローバルな視点で討議し 深め合う	希望者 (自主研修)

※ コロナ感染拡大状況でどのようになるか未定ではあるが、可能な限り参加する

※ パソコンのセキュリティについて学ぶ機会があれば常勤職員全員参加したい。

貝取学童クラブ 2021年度 事業計画

1. 定員 70名
2. 育成年齢 6歳～10歳（小学1年生～4年生）
8月一時入所は6年生まで
特別支援学校、特別支援学級に通う5、6年生は申請可
3. 育成時間 学校下校時～19:00、学校休業日8:00～19:00
4. 児童状況（4月1日在籍予定数）

	計
1年生	19名
2年生	18名
3年生	16名
4年生	8名
計	61名

① 新入所児状況

1年生 19名 2年生 1名 4年生 1名

*在籍児・卒クラブ児の弟妹：10名

*アレルギー児 : トマト(生)、1名

*要健康配慮児 : 1名

*要配慮家庭 : 5家庭

*要配慮児 : 個別加配 0名、通常加配 5名

*モアサービス利用 : 1名

*土曜利用 : 4名

*出身保育園、幼稚園

保育園	人数	幼稚園	人数
多摩	1	おだ幼稚園	4
ピオニイ第二	3	武蔵野幼稚園	1
あおぞら	3		
かおり	1		
かしのき	2		
こぐま	1		
ゆりのき	1		
みらい	2		

② 在籍児状況

- * 要配慮家庭 : 3 家庭
- * 要配慮児 : 個別加配 0 名、通常加配 9 名
- * モア利用者 : 4 名
- * 待機児童 : 0 名
- * アレルギー児 : 1 名

5. 職員体制

正職員 4 名

有期契約職員 8 名

- 〈おやつ担当〉 4 時間×週 5 日 : 1 名
- 〈要配慮児対応〉 4.5 時間×週 4 日 : 1 名 4.5 時間×週 3 日 : 1 名
4.5 時間×週 2 日 : 2 名 4 時間×週 3 日 : 1 名
4 時間 ×週 4 日 : 1 名
- 〈事務員〉 6 時間 ×週 3 日 : 1 名

6. 2021 年度重点課題

〈育成目標〉

- ・ 異年齢集団の良さを生かし、助け合い喜び合う心を育てる。
- ・ 自分の事は自分でできる子に育てる。
- ・ 命の大切さや心の痛みの分かる子に育てる。
- ・ いきいきと自分を表現できる子に育てる。

〈全体として〉

- ・ 旧北貝取小学校の校庭が改修工事を行っていて利用できないため、思い切り身体を動かす遊びの提供を職員が率先して行う。
- ・ 子どもたちが落ち着いて過ごせる空間ができるよう環境を整える。
- ・ 野菜の栽培をしたり、花を育てたりして季節を感じる事が出来るような取り組みをする。
- ・ 子どもたちの創造力を育てることを大事にし、工作や手芸の材料をそろえる。
- ・ 学校、保育園、幼稚園、その他関係機関と情報を共有し協力しながら子どもたちの育成に努めていく。
- ・ 職員一人一人が学童クラブ全体の様子を常に気にかけて適切な職員配置ができる力をつける。

<グループ担当制>

- ・ 他のグループの状況にも関心を持ち、子どもたちの日々の様子は必ず毎日の打合せで伝え合う。特に新1年生が半分以上入るグループがあるため、フォロー体制を作っていく。
- ・ グループ内の担当職員同士の打ち合わせの充実をし、連携を取り合いながら見えていく。
- ・ グループ配置、職員配置については子どもの状況をみながら検討していく。

<保護者との関係>

- ・ 新入所児の状況を把握し、保護者の気持ちや悩みに寄り添っていける関係づくりをしていく。
- ・ お迎えに来た保護者にはその日にあった出来事を少しでも伝えていき、保護者が職員に声をかけやすい雰囲気を作っていく。
- ・ 日頃お迎えに来られない保護者とは連絡帳や電話を活用し、子どもの状況を共有していく努力をする。
- ・ 毎月のお便りは行事や日々の子どもたちの様子を伝えるとともに、伝達ツールとしても活用していく。
- ・ 写真などで子どもたちの日頃の様子を伝える。
- ・ 保護者会の資料を見やすい内容にして活用できるようにする。
- ・ 保護者同士のコミュニケーションの場として保護者に積極的に場所を提供する。
- ・ 全国学童保育連絡協議会と連携を取り、学童保育を取り巻く情勢等について情報交換を行っていく。
- ・ 感染症対策について保護者に対応を発信していきながら、安心して受け入れを行えるようにしていく。

<環境面>

- ・ 使いやすさ、片づけやすさ等を見直しすっきりとした環境を保っていきたい。
- ・ 不用品の整理を引き続き行い、片付いた環境を維持する。(大、小倉庫の整理、事務室、施設裏等)

<衛生面>

- ・ 職員・子どものそれぞれの健康管理に気を付け、体調変化に注意し、記録をつけていく。
- ・ 毎日の消毒作業を行う。(遊具、机、ドア等、職員・子どもが触る箇所を重点的に)

<関係機関>

- ・ 学校と連携し、子どもたちの状況を共有していく。
- ・ 各関係機関（発達支援室、子育て総合センター、島田療育センター、教育センター等）との連絡を密にしていく。またその中で得た情報は守秘義務を守りながら職員間で共有していく。
- ・ 地域子育て支援拠点ネットワーク会議、青少協などに参加し地域とのつながりを作っていく。

<育成計画>

- ・ 計画は年間、三期、月単位で立てながら育成していき、月ごとに振り返りを行い、年度末に総括をする。
- ・ 防犯、防災の意識を高め、毎月避難訓練、防犯訓練、防災訓練等を行う。
- ・ 子どもたちが自主的に喜んで参加できるような行事を積極的に取り入れていく。企画自体を子どもたちが考えられるように取り組む。
- ・ 法人内の学童クラブと交流を深め、子どもたちの居場所として地域を意識した連携をしていく。
- ・ 卒クラブ後の子どもたちを見据え、児童館とも連携していく。

<職場として>

- ・ 職員自身が自分で考え行動してたくさんの経験ができるよう、お互いを尊重し、援助し合える関係を作っていく。
- ・ 職員がリフレッシュできるような環境を作る。皆が有給休暇を取得できる環境を作っていく。
- ・ 有期契約職員もやりがいを持って育成に当たれるよう、正職員と共にグループ運営の担い手として意思疎通を図っていく。
- ・ 正職員、有期契約職員ともに自主的に研修に参加していけるようにする。
- ・ 運営上の仕事を分担し、協力し合う。
- ・ 職員の健康管理に気を付け、健康診断、毎月の細菌検査等を行う。
- ・ 就業規則に基づく労働条件の確保に努める。

<職員研修計画> 別紙参照

2021年度 貝取学童クラブ 年間計画

多摩市学童クラブの目標

- ・自分の事は自分でできる子ども
- ・命の大切さや心の痛みのわかる子ども
- ・みんなと協力できる子ども
- ・いきいきと自分を表現できる子ども

年間目標	1.基本的な生活習慣を身につける。 2.思いやりの心を育てる。 3.様々な活動を通して創造性、社会性、自主性を身につける。 4.主体的に行動し、日々の生活の中で充足感を得る。
支援目標	<p><余暇支援> (1)家庭的で落ちつける環境作り (2)遊びの充実 (3)異年齢集団の特徴を生かし、社会性・協調性を育む</p> <p><生活支援> (1)食の大切さを知る (2)後片付けができる (3)手洗い・うがい・気候にあった着脱衣ができる</p> <p><安全指導> (1)地区班での降所指導 (2)4月及び冬期の降所路指導 (3)防犯・防災指導 (4)交通安全指導</p>
学年目標	<p>1 年 生 自分のことは自分でしよう。言いたいことを言葉で伝えよう。</p> <p>2 年 生 自分の周りにも目を向け行動しよう。班の仲間の面倒を見よう。</p> <p>3 年 生 学童クラブ全体に目を向け行動しよう。全体の中での役割を果たそう。</p> <p>4～6 年 生 1日を見通し、目的をもって生活を組み立てて行動しよう。</p>

月	期間目標	月間目標	留意点
4月	・生活習慣を身につける	新しい生活環境に慣れよう 自分のグループを知ろう	☆新入所児への配慮・上級生としての自覚を促す ☆通所経路の確認指導
5月	・仲間意識を育てる	楽しい遊びを見つけよう	☆日常の遊びや、班活動を通して、仲間意識を育む
6月		雨の日も楽しく過ごそう 関わり合いを大事にしよう	☆衛生や健康管理に配慮 ☆室内での過ごし方の工夫
7月		自立心を高めよう	☆身辺自立を促す
8月	・自分で生活を組み立てて過ごすことを学ぶ	夏休みを規則正しく過ごそう	☆長期休暇の健康管理や安全管理 ☆友だち関係の充実 ☆継続的な遊び
9月	・自主的な遊びの展開	生活のリズムを取り戻そう	☆生活リズムの確立 ☆集団生活の充実
10月	・交友関係の拡大を図る	仲間同士協力し合おう	☆自主的に考えて行動する ☆ルールを守り、仲間意識を深める
11月		自然に親しむ	☆学校行事を考慮し、無理のない活動を心がける ☆日没が早まることから、帰宅時の安全指導を行う
12月		物の管理、体調管理をしよう	
1月	・次年度に向けての意識作り	自分たちでできることをやってみよう	☆自己管理、判断力を養う ☆個々の成長の確認
2月		進級・卒クラブに向けて準備をしよう	☆新年度を迎える準備 1・2年生……進級準備
3月		一年間を振り返り、成長を認め合おう	新1年生受け入れの心の準備 3・4年生……卒クラブ後の生活に向けての対応

2021年度 貝取学童クラブ 年間計画

月	行事	防犯・防災	制作活動	家庭との連絡	学校との連絡	備考
4月	新入生歓迎会 誕生会	避難訓練 交通安全教室		保護者懇談会16日(金)	入学式 担任との打合せ	降所指導
5月	誕生会	避難訓練 引き渡し訓練	春の工作	個人面談		
6月	誕生会	防犯教室		親子交流会 夏休み説明会		
7月	誕生会	交通安全教室		昼食会		
8月	映画会・お楽しみ遠足 誕生会		夏休み工作	昼食会		
9月	誕生会	避難訓練 総合防災訓練			職場体験	
10月	おみせやさん 誕生会	防犯訓練		保護者懇談会		冬時間降所開始
11月	誕生会	避難訓練	工作週間 (のびのび豊ヶ丘祭り)	個人面談		
12月	3年生遠足 おたのしみ会 誕生会	防犯教室		豚汁パーティ		集団遊び
1月	お留守番講座 誕生会	避難訓練				
2月	誕生会	防犯教室				
3月	進級お祝い会 誕生会	避難訓練	新入生へのプレゼント製作	入所説明会 卒クラブ式	卒業式 担任との情報交換	児童館見学

ねらい

<行事>

仲間意識、お互いに思いやる心を育む……………新入生歓迎会・お別れ会等
みんなで準備し、取り組むことにより自主性・協調性を育む……………お楽しみ会等
社会性を身につけ、自主的行動を実践する機会とする……………卒クラブ遠足、お留守番講座等

<制作活動>

作る喜び、考えた事が形になる喜び、友達同士で教え合い伝え合う楽しさを体験する。

2021年度 貝取学童クラブ 研修計画

研修名	主催	内容	対象者	時期
学童クラブ 担当者 基礎研修	多摩市	初任者研修	1年目の職員全 員と2, 3年目の 希望者	5月～ 9月
学童クラブ 担当者 中級研修	多摩市	中堅職員育成研修	施設長が推薦す る職員	未定
学童クラブ 担当者 会議(全6回)	多摩市	・応急処置について ・人権について ・防災について ・子どもの見立て ・子育て総合センターに ついて ・発達支援室について	常勤職員	6月～ 2月
課内研修(全2回)	多摩市	(2018年度)・保護者へ の伝え方と信頼関係を 築く対応 ・教育センターについて	常勤職員	10月
全国学童保育合同 研究集会	全国学童保育 連絡協議会	学童保育についての全 体会および分科会形式 の合研	常勤職員2名ま で	10月
保護者・関係者向け 研修	島田療育 センター	発達障害等	全職員	不定期
市民・関係者向け研 修	保健所	発達障害、精神障害、愛 着障害等	全職員	不定期
関係者向け研修	子育て総合 センター	発達障害、愛着障害等	全職員	不定期
三多摩フォーラム	三多摩学童保育 連絡協議会	学童保育についての全 体会および分科会形式 の合研	全職員	年1回
法人学担	三学童クラブ 常勤職員	事例、法令等の学習	常勤職員	隔月 1回
法人合同研究集会	多摩福祉会	法人内すべての施設の 合同の研究集会	全職員	年1回
新人研修	多摩福祉会	新入職員に対し、在職職 員の体験発表など	新入職員	2月
キャリアパス対応 生涯対応研修課程 初任者・中堅職員・ チームリーダー・管理 職員 その他強化研 修	東京都社会福祉 協議会	・自らのキャリアアップに ついて考える ・立場の役割行動を遂行 するための基本を学ぶ	常勤職員	各研修 年2回

永山学童クラブ 2021年度 事業計画

1. 定員 70名
2. 育成年齢 6歳～10歳（小学1年生～4年生）
及び、特別支援学校または特別支援学級に通学している5, 6年生
8月一時入所は6年生まで
3. 育成時間 学校下校時～19:00、学校休業時8:00～19:00
4. 児童状況（2月1日現在入所予定者）

学年		うち他施設待機児童
1	6名	0名
2	11名	1名
3	9名	5名
4	6名	3名
5	4名	2名
6	1名	1名
合計	37名	※12名

※他施設待機児童の内訳

愛宕南学童クラブの待機児童 2名(3年生1名・4年生1名)
永山小学童クラブの待機児童 10名

① 新入所児状況

1年生 6名 2年生 1名
*要配慮児 : 0名
*アレルギー児 : 1名(ピーナッツ)
*要健康配慮児 : 1名
*モアサービス利用予定 : 確認中
*出身保育園、幼稚園

こぐま保育園	5名
東京大谷幼稚園	1名

② 在籍児状況

- * 要配慮児 : 11名 (通常加配5名 個別加配6名)
- * 要健康配慮児 : 1名
- * 要配慮家庭 : 8名
- * モア利用予定者 : 2名

5. 職員体制

正職員 3名

有期契約職員 5名 : 要配慮児対応

4時間×週5日 2人 4時間×週4日 1人 5時間×週5日 1人
土曜日専任(8時間) 1名

※要配慮児の入所が最終的に決定した後必要な場合加配職員を追加する

6. 2021年度 重点課題

<育成目標>

- ・ 特別支援学級の子ども達を含む異年齢集団の中で子ども達がお互いの違いを認め助け合いながらともに成長できるようにする。
- ・ 自分の言葉で自分の気持ちを正しく表現できる子、いきいきと自分らしく生きていく子に育てる。
- ・ 自分を大切にすると共に他の人のことを思いやり尊重出来る子に育てる。
- ・ 自分の事は自分で考えて行動出来る子に育てる。

<全体として>

- ・ グループ制について 在籍数が少なく従来の地域ごとのグループ分けでは男女、学年などのバランスが悪くなるため、グループの分け方や日々の活動の方法を見直す。引き続きひとりひとりの子どもに対してきめ細かな育成に努める。
- ・ 日常の生活、行事を通じて子ども達が主体性をもって行動できるように支援する。
- ・ 野菜作りをはじめ「食」に関する活動を通じ食べ物に興味を持たせ卒業後の生活に活かせるようにする。
- ・ 子ども達の様子から課題を見出し、それを「気持ちの伝え方講座」などで子ども達とともに考えていき、子ども達が適切な方法でコミュニケーションが取れるようにする。
- ・ 全職員がグループを越え子ども達の様子などの情報を共有し共通認識をもって育成にあたる。
- ・ 職員の資質の向上のためそれぞれが研修計画を立てて取り組み、また、得た知識を

職員間で共有する。

- ・ 保護者、学校、地域、専門機関と常に連携をはかり、協力しながら子ども達を育てていく。

<保護者との関係>

- ・ 子ども達の様子や学童クラブの育成内容を理解していただくために日々の連絡帳の記載やお便り、HP、保護者会でのスライド上映などの方法で育成の内容を発信していく。
- ・ 2019年度はアルバムを玄関において保護者に見ていただいたが、昨年度は正職員だけでは十分に用意できないことがあったため、途中から子ども達の力を借りて壁新聞の形で写真を掲示した。今年度も同様に子ども達が作成したものを見ていただくようにする。
- ・ 面談週間だけでなく、必要に応じて電話などで直接保護者に学童クラブから気になることを伝えたり、保護者の気持ちに常に寄り添う姿勢で日常の子どもの様子や子育ての悩みを聞いたりしながら子どもの育成に協力し合える関係を築いていく。
- ・ 保護者同士が学年間、あるいは学年を越えて繋がれる機会が昨年度は新型コロナウイルス感染予防のためになかったが、今年度は出来る範囲で工夫して保護者同士が交流できる行事や保護者会のあり方を考えていく。
- ・ 父母会に積極的に関わりを持ち、共催行事などを協力し合っておこなう。

<環境面>

- ・ 昨年度は、新型コロナウイルス感染防止の影響もあって子ども達の体力が低下していた為か例年より怪我が多かった。特に隣接する公園は平らな場所が少なく危険なので少し離れた公園や学校の校庭で遊ぶようにした。今年度も時間に余裕があるときには安全でのびのび遊べる場所を利用する。
- ・ 子ども達には引き続き外遊びの際には事前の注意や準備体操をしっかりと行い怪我の防止に努める。また、子ども達自身も危険を回避できるようにする。
- ・ おもちゃや本の片づけをどの子ども達も自分でしっかりと出来るように物の置き場を文字、絵、写真、色のシールなどを使用してわかりやすくする。
- ・ 特別支援学級の子どもや対人に課題のある子どもが遊びを通じて他児との関係を結び広げられるようなおもちゃを選び提供する。
- ・ 毎週金曜日に各自のロッカーを清掃する習慣や大掃除を通じて子ども達が自分の物の整頓や管理をすることで、自分たちが過ごす生活空間を快適なものにすることを自ら出来るようにする。
- ・ 職員各々が環境整備に心掛けるとともに感染症予防の為の清掃と消毒の徹底をはかる。

- ・ 市と連携しながら施設の安全をはかる。

<関係機関>

- ・ 地域や永山エリアの各施設の情報を共有し繋がりを深めるために青少年問題協議会や地域子育て支援拠点ネットワーク会議、永山エリア全体会(永山児童館と永山エリアの学童クラブの職員の会議)に積極的に参加する。
- ・ 子ども家庭支援センター、島田療育園、発達支援室、教育センターなどの関係機関や小学校、保育園、幼稚園と守秘義務を守りつつ、子どもに関する情報を共有し育成に活かしていく。特に小学校とは必要に応じて子どもの様子や家庭状況を共有し互いに協力し合える体制を整える。
- ・ こぐま保育園とは新型コロナウイルスの終息後には、子どもだけでなく、職員も日々の育成の中で互いの施設を訪問したり行事を一緒に行ったり交流を図れる機会を考える。

<育成計画>

- ・ 育成の目標を達する為の年間、学期、月の目標を設定して日々の育成を行い、日常の育成を基に行事を計画して実施していく。
- ・ 従来の地域ごとのグループ制をやめ、学年や男女、要配慮児のバランスを考えた2つの少人数集団を作り、日常の勉強やおやつや帰りの会などの場面で落ち着いた生活空間で子ども達が過ごせるようにする。
- ・ 全体の在籍数が少ないので正職員と有期契約職員全員でグループを越えて一人一人の子どもの様子を共有し協力して育成にあたるようにする。
- ・ 少人数集団や全員で活動する際、班の座席決め、行事の計画や役割分担、日々のおやつや帰りの会の進行などを子ども達に任せるなど、子ども達の力を発揮できる機会を出来るだけ設け、学童クラブの生活を子ども達が主体的に作り上げていくように働きかける。そこで培った経験を卒クラブ後の自立した生活に結びつけていくようにする。
- ・ 子ども達に野菜作りで何を栽培するかや毎月のおやつや献立を考えさせたり買い物に行ったり「食」に興味を持って関わってもらえる機会を与える。できれば昨年度自粛した調理も子ども達にしてもらう機会があれば参加してもらい卒クラブ後の生活に活かしていく。
- ・ 防犯安全教室や交通安全教室、お留守番講座などを実施し卒クラブ後も地域で安全に過ごせるようにしていく。特にお留守番講座は1, 2年生と3, 4年生以上に分けてそれぞれの学年に合った内容で実施することでそれぞれの発達に合った内容を学べるようにする。
- ・ 「気持ちの伝え方講座(言葉で気持ちを伝える講座)」は子どもたちの日々の様子の中から課題となる事柄をテーマに選び大人がロールプレイでその場面を再現し

て子ども達にどうしたらよいかを考えてもらう形で実施する。この講座を通じて子ども達に相手の気持ちを考えたり自分の気持ちを正しく伝える方法を学んだりできるようにしていく。

- ・ 毎年同じ内容の繰り返しであるがCAPの講座も学年別に行い「安心、自信、自由」という互いが持っている権利について子どもに学んでもらいながら自分を守れるようにしていく。
- ・ 島田療育園の巡回相談を利用し配慮児の育成について全職員が学び、共通認識を持って実践していくようにする。
- ・ 毎日子どもが登所するまでの時間に全職員で行っていた打ち合わせが、昨年度は新型コロナウイルス感染予防措置のために学校が早く終わり登所時間が早まった為、十分な時間が取れなかった。そのため降所指導後に時間を確保し日々の子どもの様子や育成方法についての意見交換や情報共有を行うようにした。今年度もこのような時間を毎日確保して職員の共通認識を図る。
- ・ 月一回の全職員会議で要配慮児や気になる子どもの課題を挙げ育成目標を設定したり育成方法を検討したりする。また、行事の打ち合わせをしたり、日々の細かい育成についての疑問や問題を出し合い話し合ったり、職員が共通認識をもって協力して育成に当たれるようにする。
- ・ 月一回の防災防犯訓練を実施し災害時や不審者への対応を職員も子ども達も出来るようにする。

<職員について>

- ・ すべての職員が互いに気づいたことや意見を話しやすい関係づくりに努め、仕事を分担し協力しながら学童クラブの運営に携わるようにする。
- ・ 日頃から引き継ぎノートやホワイトボードの伝言板、すべての子どもの様子を書き留めるファイルを利用し子どもの様子をこまめに伝え合えるようにする。
- ・ 研修計画を各自が立て全国、三多摩、市内、課内、法人内、東社協、その他の研修に積極的に参加する。またその内容を共有し、資質の向上を図る。
- ・ 有期契約職員に基礎学担の内容を伝え育成の基本を学んでもらう。また、放課後児童支援員の資格認定の研修の機会がある場合は出来る限り参加して資格を得てもらおう。
- ・ 必要に応じ施設長が職員と面談を行い、施設運営の課題を把握し職員一人一人が気持ちよく働くことができる職場環境作りに努める。
- ・ 就業規則などに基づく労働条件の確保に努める。
- ・ 健康診断受診の機会を設ける。また、日頃から職員は健康管理に努める。

<職員研修計画> 別紙参照

令和3年度 永山学童クラブ 年間計画

多摩市学童クラブの目標

- ・自分の事は自分でできる子ども
- ・みんなと協力できる子ども
- ・命の大切さや心の痛みのわかる子ども
- ・いきいきと自分を表現できる子ども

年間目標	1.基本的な生活習慣を身につける。 2.思いやりの心を育てる。 3異年齢集団の活動を通じて創造性、社会性、自主性を身につける。
支援目標	<生活支援>①挨拶、片付け、清掃、マナー等基本的な生活習慣と知識の習得ができるようにする ②手洗い、うがいや気候にあった衣服の調整など自分で健康管理ができるようにする ③自分で育て作り食べる事を通じ、食の大切さを学べるようにする <余暇支援>①家庭的で落ち着く環境をつくる ②遊びを充実させ精神的安定をはかる ③遊びを通して他人との関わり方を学び心身の発達を促す ④異年齢集団の活動を通じ思いやりを育む <安全指導>①交通安全指導、防犯、防災に関する指導訓練 ②社会のルールの指導 ③帰宅班の降所指導
学年目標	1 年 生 自分のことは自分でしよう 言いたいことを言葉で伝えよう 2 年 生 自分の周りにも目を向けてみよう 3 年 生 学童クラブ全体に目を向けて全体の中で自分の役割を果たそう 4～6 年 生 一日を見通し目的をもって生活を組み立てて過ごそう

月	期間目標	月間目標	留意点
4月	・基本的生活習慣を身につけよう ・学童クラブのルールを覚えよう ・仲間意識を育てよう	新しい生活環境に慣れよう	☆新入所児への配慮・上級生としての自覚を促す ☆通所経路の安全確認
5月		友だちをたくさんつくろう	☆日常の生活遊び行事等の活動を通じ仲間意識を育む
6月		雨の日も楽しく過ごそう	☆室内での過ごし方の工夫
7月		体調管理に気を付けよう	☆衛生面や熱中症予防等健康管理に配慮
8月	・充実した生活で元気に2学期を迎えよう	規則正しい生活を送ろう	☆長期休暇の健康や安全管理 ☆友だち関係や遊びの充実をはかる
9月	・仲間と過ごす楽しさを膨らませよう ・主体的に行事等の活動や遊びをしよう	生活のリズムを取り戻そう	☆生活リズムを整える ☆学校行事を考慮し無理のない活動を心がける
10月		新しいことにチャレンジしよう	☆自主的に考えて行動できるようにする ☆日没が早くなるに伴い帰宅時の安全指導をおこなう
11月		友達関係を深めよう	☆ルールを守り、仲間意識を深められるようにする ☆遊びなどで自然に親しむようにうながす
12月		身の周りをきれいにしよう	☆ロッカーや自分の持ち物の管理と整頓をうながす
1月	・進級に向けて準備をしよう	寒さに負けずに元気に遊ぼう	☆体調管理ができるよううながす
2月		生活の見直しをしよう	☆自ら判断する力を養い自己管理ができるようにする
3月		進級する自覚をもとう	☆それぞれの学年で進級の準備をする 1, 2年生は新1年生を迎える準備 3, 4年生以上は卒クラブ後の生活準備

令和3年度 永山学童クラブ 年間計画(案)

月	行事	防犯・防災	制作活動	家庭との連絡	学校との連絡	備考
4月	新入生歓迎会 誕生会	避難訓練 (防災安全教室)	新入生へのプレゼント製作	保護者会23日(金)	入学式 担任との打合せ	1年生学校への迎え 降所指導
5月	誕生会	引き渡し訓練 避難訓練(地震) 防犯安全教室	工作週間	引き渡し訓練 全員対象個人面談 (5~6月)		
6月	誕生会 歯科指導 スティグマについての 講座	避難訓練 (地震・火災))		親子交流会 12日(土)		
7月	誕生会 映画会	避難訓練 (不審者)) 子どもCAP		夏休み説明会 大人CAP 昼食会		
8月	夏のお楽しみ会 昼食会 誕生会			夏のお楽しみ会 (参加自由)		夏のボランティア受け入れ
9月	誕生会	総合防災訓練 お留守番講座		冬時間降所につい てアンケート実施		
10月	おみせやさん 誕生会	避難訓練 (地震)		3年生保護者 交流会会		冬時間降所開始 予定 18日(月)
11月	気持ちの伝え方 講座 誕生会	避難訓練 (不審者)	工作週間 11月末~12月	個人面談 (希望者)	中学生職場体験	遠足実踏
12月	3年生遠足 おたのしみ会 誕生会 大掃除・映画会	避難訓練 (火災)				
1月	こぐま保育園との 交流会 誕生会 3年遠足予備日	避難訓練 (地震・火災)		新入所面談		冬時間降所終了 予定 8日(土)
2月	進級お祝い会 誕生会	避難訓練 (地震・火災))		進級お祝い会		
3月	誕生会 昼食会	避難訓練 (地震・火災)) 交通安全教室		入所説明会 昼食会	卒業式	

ねらい

<行事>

仲間意識や思いやりの心を育む.....新入生歓迎会・こぐま保育園交流会等
みんなで準備などに取り組むことにより自主性・協調性を育む.....お楽しみ会等
社会性を身につけ、自分で判断し行動する力を養う.....卒クラブ遠足、お留守番講座等

<制作活動>

作る喜び、最後まで作り上げる努力、友達同士で教え合う楽しさなどを体験させる。

<講座>

適切な方法で気持ちを伝えあうことや自分だけでなく他人を尊重出来るようにする
...気持ちの伝え方講座・CAP等

健康管理や身の回りの安全について学ぶ...歯科指導・防犯安全教室・交通安全教室等

2021年度 永山学童クラブ 研修計画

研修名	主催	内容	対象者	時期
学童クラブ担当者基礎研修	多摩市	市内施設長による初任者研修	新人職員及び 有期契約職員(対象にならない場合は施設で実施予定)	5月～ 6月
学童クラブ担当者中級研修	多摩市	中堅職員育成研修	施設長が推薦する職員	未定
学童クラブ 担当者会議	多摩市	(以下2020年度各施設で実施した内容今年度未定) ・応急処置について ・人権について ・災害時対応 ・発達支援室について ・子どもの見立て ・子育て家庭支援センターについて	正職員	6月～ 2月
課内研修(全2回)	多摩市	(今年度内容未定)	正職員	10月 2月
全国学童保育合同研究集会	全国学童保育 連絡協議会	学童保育についての全体会 および分科会形式の合同研修	全職員	10月
1, 2年目研修研修	島田療育センター	発達障害等について	全職員	不定期
島田巡回相談	島田療育センター	施設の要配慮児等の事例を基 に育成などについて相談し学ぶ	施設内全職員	年に1回
市民・関係者向け研修	保健所、市、都	発達障害、精神障害、愛着障 害、アレルギーについて等	全職員	不定期
関係者向け研修	子ども家庭支援セン ター	発達障害、愛着障害等	全職員	不定期
三多摩フォーラム	三多摩学童保育 連絡協議会	学童保育についての全体会 および分科会形式の合研	全職員	年1回
法人学担(たま研)	四学童クラブ正職員	内容未定	正職員	未定
法人合同研究集会	多摩福祉会	法人内すべての施設職員の 合同の研究集会	全職員	年1回
中堅層職員研修	多摩福祉会	法人内中堅層職員対象の研修 内容未定	各施設の中堅層職員	未定
救命救急講習	多摩市	応急手当、救命処置の講習	今年度該当正職員	6月
東社協	東社協	会計研修他	正職員	未定
東京都放課後児童支援員研修	東京都	放課後児童クラブ運営指針他 支援員資格認定研修	該当する有期契約職員	未定

貝取小学童クラブ 2021年度 事業計画

1. 定員 80名
2. 育成年齢 6歳～10歳（小学1年生～4年生）
8月一時入所は6年生まで
特別支援学校、特別支援学級に通う5,6年生は入所可
3. 育成時間 学校下校時～19:00、学校休業時8:00～19:00
4. 児童状況（4月1日現在）

	計
1年生	21名
2年生	25名
3年生	18名
4年生	4名
5年生	1名
6年生	0名
計	69名

① 新入所児状況

1年生 21名

* 在籍児の弟妹 4名

* アレルギー児 : 2名（エピペン所持）

* 要配慮児 : 個別加配 2名、通常加配 4名

* モアサービス利用 : 0名

* 出身保育園、幼稚園

保育園	人数	幼稚園	人数
ピオニイ第二	7	せいとく	1
ゆりのき	3	すみれ	1
こぼと第一	3		
こころ	2		
かおり	1		

保育園	人数
あおぞら	1
こぐま	1
のびのびっこ	1

② 在籍児状況

- * 要配慮児 : 個別加配 8 名、通常加配 6 名
- * モア利用者 : 7 名
- * 待機児童 : 0 名
- * アレルギー児 : 1 名

5. 職員体制

正職員 5 名

有期契約職員 12 名

〈おやつ担当〉 6 時間×週 5 日 : 1 名

〈要配慮児対応〉 5,5 時間×週 5 日 : 1 名 4,5 時間×週 4 日 : 3 名 5 時間×週 3 日 : 2 名
4 時間×週 4 日 : 1 名 4 時間×週 3 日 : 1 名 大学生 3 名

6. 2021 年度重点課題

〈育成目標〉

- ・ 異年齢集団の良さを生かし、助け合い喜び合う心を育てる。
- ・ 自分の事は自分でできる子に育てる。
- ・ 命の大切さや心の痛みの分かる子に育てる。
- ・ いきいきと自分を表現できる子に育てる。

〈全体として〉

- ・ 2020 年 7 月よりグループ担当制を導入した。子どもたちの間には自分の居場所という感覚が芽生えてきている。地域別のグループのため、学年男女など構成メンバーに偏りが見られることもあるが、バランスにとらわれずグループの個性ととらえ、一人一人が生き生きと過ごせるような活動を増やしていきたい。
- ・ 有期契約職員についてはグループを固定していなかった。今年度より所属グループを決めていく。
- ・ 配慮児が多いため職員数も多いので月 1 回は全員の会議を持ち、情報共有していく。

- ・ 子どもたちの間にマスク着用や手洗い、消毒などは定着してきているので、子どもたち自身で健康管理をしていき自分の体を守ることの大切さを学んでいく。
- ・ 今年度も感染症を意識した取り組みが必要になることが想定されるので、これまでの経験を活かし行事などは無くすのではなくできる形を探っていきたい。
- ・ 他の法人経験者が入職したことにより、行事や工作の幅が広がりを見せた。引き続き職員により刺激を与え続けて欲しい。ディスカッションができる職員づくりを目指していく。
- ・ 職員一人一人が学童クラブ全体を見る力、一人一人の子どもを見る力、問題解決に積極的にかかわる姿勢を身に付け主体的に行動できる職員集団を目指す。
- ・ アレルギー児の入所が予定されているため、アレルギー児に対する育成の経験者と管理栄養士の資格を持つ有期契約職員とをリーダーとし、事故のないよう職員一丸となって対応していく。マニュアルも整備する。
- ・ 月1回全員でアレルギーに関する会議を行う。

<保護者との関係>

- ・ 連絡帳には連絡事項の記入と合わせて子どもの様子を少しでも記入できるようにしていくため、連絡帳、出欠確認担当者だけでなく各グループの担当職員も記入していけるようシステムを変えていく。
- ・ 市から個人情報の保存方法の変更が示され、パソコンの扱いに制約がでてくるので、これまでの事務分担を見直し、円滑に業務が回っていくよう工夫をしていく。
- ・ 連絡ミスをなくすため、職員間の連絡・報告を確実に行っていく。
- ・ 毎月のお便りの内容を見直し、新しい視点で作成していくことを目標とする。
- ・ 子どもたちの日頃の様子をDVDなどで見てもらう機会を作っていく。
- ・ 父母会がないので、学童クラブから設立の提案をしていきたい。

<環境面>

- ・ 各グループが使い勝手が良いようにレイアウトを改善していく。グループのカラーにより、部屋の位置なども検討していく。
- ・ 連絡帳机、日課のホワイトボードなどの位置を検討していく。
- ・ 室内、室外に花が絶えないよう管理していく。

<関係機関>

- ・ 小学校と良い関係の中で施設をスタートすることができた。今後も小学校との連携を大事にし、協力しながら子どもたちの生活を守っていく。連絡を密に、子どもたちの状況をこまめに伝えあい共有していく。
- ・ 保育園、幼稚園などと連携し、幼児期から継続してみまもっていく。
- ・ 各関係機関（発達支援室、子育て総合センター、島田療育センター、教育センター

等)との連絡を密にしていく。またその中で得た情報は守秘義務を守りながら職員間で共有していく。

- ・ 乳幼児ネットワーク会議、青少協、子育てミーティングなどに出席し地域とのつながりを作っていく。

<育成計画>

- ・ 計画は年間、三期、月単位で立て、個人、グループ、全体それぞれの目標達成を確認していく。
- ・ 防犯、防災の意識を高め、毎月避難訓練、防犯訓練、防災訓練等を行う。
- ・ 月に1回の会議では一人一人の子どもたち、家庭状況、学校情報などについて情報共有し認識の統一を図る。
- ・ 子どもたちが喜んで行事に取り組み、自主的に作り出す力をつけていく。子どもたちによる企画を大事にし、実現への支援を行っていく。
- ・ 法人内外の学童クラブと交流を深め、協力していく。
- ・ 卒クラブ後の子どもたちを見据え、児童館、コミュニティセンターなどと連携し、地域活動にも積極的に参加していく。

<職場として>

- ・ 職員集団の関係をさらに深めていくために、更衣室に設置したコミュニケーションボードを活用していく。
- ・ 正職員間で仕事の分担は必要だが、お互いの仕事内容を理解し、協力し合える関係を保っていく。
- ・ 有給休暇を取りやすくするよう人員配置に配慮する。
- ・ 有期契約職員もやりがいを持って育成に当たり、正職員と共にグループ運営の担い手となれるよう意見を言い合える職場にする。
- ・ 正職員、有期契約職員ともに自主的に研修に参加していけるようにする。
- ・ 運営上の仕事を分担し、協力し合う。
- ・ 職員の健康管理に留意し、1年に1回の健康診断、毎月の細菌検査等を行う。
- ・ 就業規則に基づく労働条件の確保に努める。

<職員研修計画> 別紙参照

2021年度貝取小学童クラブ 年間計画

- ・自分の事は自分でできる子ども
 - ・命の大切さや心の痛みのわかる子ども
- ・みんなと協力できる子ども
 - ・いきいきと自分を表現できる子ども

年間目標	1.基本的な生活習慣を身につける。 2.思いやりの心を育てる。 3.様々な活動を通して創造性、社会性、自主性を身につける。 4.主体的に行動し、日々の生活の中で充足感を得る。
支援目標	<余暇支援> (1)家庭的で落ちつける環境作り (2)遊びの充実 (3)異年齢集団の特徴を生かし、社会性・協調性を育む <生活支援> (1)食の大切さを知る (2)後片付けができる (3)手洗い・うがい・気候にあった着脱衣ができる <安全指導> (1)地区班での降所指導 (2)4月及び冬期の降所路指導 (3)防犯・防災指導 (4)交通安全指導
学年目標	1年生 自分のことは自分でしよう。困ったことは言葉で伝えよう。 2年生 自分の周りにも目を向け行動しよう。下の学年の子の面倒を見よう。 3年生 小学童クラブ全体に目を向け行動しよう。全体の中での役割を果たそう。 4～6年生 1日を見通し、目的をもって生活を組み立てて行動しよう。

月	期間目標	月間目標	留意点
4月	・生活習慣が身につく ・仲間意識を育つ	新しい生活環境に慣れよう 自分のグループを知ろう	☆新入所児への配慮・上級生としての自覚を促す ☆登降所経路の確認
5月		好きな遊びを見つけよう	☆日常の遊びや、班活動を通して、仲間を意識する
6月		雨の日も楽しく過ごそう 関わり合いを大事にしよう	☆衛生や健康管理に配慮 ☆室内での過ごし方の工夫
7月		自立心を高めよう	☆身辺自立を促す
8月	・主体的に生活を組み立てて過ごす ・遊びの展開	夏休みを規則正しく過ごそう	☆長期休暇の健康管理や安全管理 ☆友だち関係の充実 ☆継続的な遊び
9月		生活のリズムを取り戻そう	☆生活リズムの確立 ☆集団生活の充実
10月		仲間同士協力し合おう	☆自主的に考えて行動する ☆ルールを守り、仲間意識を深める
11月		自然に親しもう	☆学校行事を考慮し、無理のない活動を心がける ☆日没が早まることから、帰宅時の安全指導を行う
12月		物の管理、体調管理をしよう	
1月	・次年度に向けて意識する	自分たちでできることをやってみよう	☆自己管理、判断力を養う ☆個々の成長の確認
2月		進級・卒クラブに向けて準備をしよう	☆新年度を迎える準備 1・2年生……進級準備
3月		一年間を振り返り、成長を認め合おう	新1年生受け入れの心の準備 3・4・5・6年生…地域での生活に向けての取組

2021年度 貝取小学童クラブ 年間計画

月	行事	防犯・防災	制作活動	家庭との連絡	学校との連絡	備考
4月	新入生歓迎会 誕生会	避難訓練	新入生へのプレゼント制作	保護者懇談会	入学式 担任との打合せ	降所指導
5月	誕生会	避難訓練 引き渡し訓練	春の工作	個人面談		
6月	歯科指導 誕生会	防犯教室		夏休み説明会		
7月	誕生会	交通安全教室		昼食会		
8月	誕生会		夏休み工作	夏まつり		
9月	誕生会	避難訓練 総合防災訓練			職場体験	
10月	おみせやさん 誕生会	防犯教室		保護者懇談会		冬時間降所開始
11月	誕生会	避難訓練	秋の工作 (のびのび豊ヶ丘祭り)	個人面談 3年生保護者会		
12月	3年生遠足 誕生会	防犯訓練				集団遊び
1月	お留守番講座 誕生会	避難訓練		冬まつり		冬時間降所終了 新入所児面談
2月	誕生会	防犯教室				
3月	進級お祝い会 誕生会	避難訓練		入所説明会	卒業式 担任との情報交換	児童館見学 新年度準備

ねらい

<行事>

仲間意識、お互いに思いやる心を育む……………新入生歓迎会・進級お祝い会等
みんなで準備し、取り組むことにより自主性・協調性を育む……………おみせやさん等
社会性を身につけ、自主的行動を実践する機会とする……………3年生遠足、お留守番講座等

<制作活動>

作る喜び、考えた事が形になる喜び、友達同士で教え合い伝え合う楽しさを体験する。

2021年度 貝取小学童クラブ 研修計画

研修名	主催	内容	対象者	時期
新人研修(入職後)	多摩福祉会	新入職員研修	新入職員	6月
学童クラブ 担当者 基礎研修	多摩市	初任者研修	1年目の職員全員と 2, 3年目の希望者	5月～ 9月
学童クラブ 担当者 中級研修	多摩市	中堅職員育成研修	施設長が推薦す る職員	未定
学童クラブ 担当者 会議(全6回)	多摩市	・応急処置について ・人権について ・防災について ・子どもの見立て ・子ども家庭センター・発達支 援室について	常勤職員・長時 間職員	6月～ 2月
アレルギー研修	東京都	アレルギー児の対応について	常勤職員	6月以降
課内研修(全2回)	多摩市	未定	常勤職員	10月
全国学童保育合同 研究集会	全国学童保育 連絡協議会	学童保育についての全体会 および分科会形式の合研	全職員	10月
保護者・関係者向け 研修	島田療育 センター	発達障害等	全職員	不定期
初任者向け研修	島田療育 センター	発達障害等	新入職員～2, 3 年目職員	秋
市民・関係者向け研 修	保健所	発達障害、精神障害、愛 着障害等	全職員	不定期
関係者向け研修	子ども家庭支援 センター	発達障害、愛着障害等	全職員	不定期
三多摩フォーラム	三多摩学童保育 連絡協議会	学童保育についての全体会 および分科会形式の合研	全職員	年1回
たま研(法人内研修)	三学童クラブ 常勤職員	事例、法令等の学習	常勤職員	学期に 1回
法人合同研究集会	多摩福祉会	法人内すべての施設の 合同の研究集会	全職員	年1回
医療的ケア児童支援 者育成研修	東京都	医療的ケア児支援者育 成のための研修(2020年 度はZOOM)	全職員	年1回
新人研修	多摩福祉会	新入職員に対し、在職職 員の体験発表など	新入職員	2月